

経営システム強化プログラム

変化に強い”ハイクオリティ”な組織体質作り

株式会社 日本総合研究所
経営システム研究クラスター



日本総研

The Japan Research Institute, Limited

1.コストダウン推進プログラム 内部統制業務の効率化

統制業務の効果を維持、向上しながら、統制業務を効率化し、コスト削減の実現を支援。
(検討内容(例))

- 業務活動の持つ統制目標に対する、リスクと統制の紐付け。
- リスクの程度に応じて、統制の見直しを実施。(unnecessary統制の排除、キー統制の強化、リスク自体が発生しない業務への改善 等)
- コスト改善効果の測定手法の検討、測定。
- 持続的なコストダウンへの見直しを図る為の、統制の有効性評価手法の検討、有効性評価の実施。

- 自社の業務活動にムダが多い気がする。
- 業務処理コストをなんとか削減できないだろうか。
- 今、なぜこのような業務のやり方になっているのか、その目的がよくわからない。
- 継続的なコスト改善を行う仕組みを導入したい。

2.経理体制構築支援プログラム

(原価管理体制再構築支援プログラム)

経理体制を効率化し、攻めの経理部門の実現を支援。

- 経理部門における問題を、業務プロセスの視点で捉え、現業部門、情報システムを含め、部門横断的に解決し、全社レベルで経理業務を効率化。
- 解決策を業務手順のレベルで決定し、「RCM」として明文化。
- RCMを利用し、リスクや統制を見直し、形骸化を防ぐ「自己点検制度」の導入。

全社の視点で、効率的な原価管理体制手法の検討を支援。

- 購買サイクル、販売サイクル、在庫管理サイクルを巻き込み、各部門での原価管理責任を設定。
- 原価管理責任に応じた効率的な原価管理手法を再構築。

- 決算報告までに時間が多くかかる。
- 正直なところ、十分吟味して決算を行えていない。
- 経理部門と現業部門の双方向のコミュニケーションがなされていない。
- 経理部門から人が足りないという切実な声が聞こえる。
- 経理部門にこそ、経営目標達成に向けた攻めの機能を担ってほしい。
- 急速に製品を多角化してきた。合併買収が最近多い。
- 原価計算は、経理部や特定部門の仕事であるという風潮があり、原価管理意識が低い。
- 棚卸資産の受払の処理で数量差異が頻発する。

3.IFRS (国際財務報告基準) 対応支援プログラム

主に次のような支援を実施。

- IFRS (国際財務報告基準) の理解
- IFRSと自社グループの会計基準との差異分析
- IFRSに則した自社グループ会計基準案策定
- IFRS対応上の問題点整理
- IFRS対応上の問題点に関する解決策検討
- IFRS対応プロジェクトに向けた計画策定、体制整備
- IFRS対応研修

- IFRS (国際財務報告基準) とは何なのかをもっと知りたい。
- IFRS対応が今後大変になるという話を聞いたが、何からどのように手を付けて良いかわからない。
- IFRSがわが社にどのような影響を及ぼしそうかわかりたい。
- 他社のIFRS対応の状況を知りたい。
- 「J-SOXの後はIFRS対応」という話を聞くが、J-SOX対応でさんざん苦労したので、対応の必要性、作業ボリュームをしっかりと見極めたい。

4.J-SOX 内部統制評価支援 プログラム (2年目以降の運用支援)

内部統制評価体制や評価手法について、今後の運用における効率化を支援。
(再検討内容(例))

有効性評価手順作成及び帳票の設計、サンプル件数決定方法の設計、評価(監査)計画作成、評価(監査)証跡の記録・保管、評価(監査)調書の作成、サンプルテスト結果の記録、評価(監査)報告書の作成、拠点向け有効性評価手順作成、拠点の特色に応じたリスク評価、キーコントロールの選択、評価結果の取りまとめ、課題の抽出・整理、改善勧告・改善支援、改善結果のフォローアップ、不備の集計、重要な欠陥の判定手順設計、代替統制の検討、 etc

- 初年度、評価をスムーズに進める体制が十分に構築できなかった。
- 初年度、内部統制の評価手法・ツールが複雑で評価に膨大な時間がかかった。
- 独立評価のための時間・人数が足りない。
- 外部監査(監査法人監査)を受けるのが不安だ。
- 評価した後、不備をどう判定していいかわからない。
- リスクに応じた内部統制の高度化を目指したい。

5.J-SOX 海外・国内子会社 整備・評価支援プログラム

内部統制評価の対象となる子会社について、下記などを支援。

- 現地担当者との協議の上、整備・文書化を支援
- 子会社の特殊性、リスクの程度に応じた、実施可能な評価手法の検討
- 実際の往査等を通じた評価活動の支援

- 子会社で実際何をしているのかわからない。
- 初年度は見逃してもらったが、来年までにきちんと整備しなければならない。
- とりあえず子会社の整備はしたものの、本当に内部統制が有効か自信が持てない。
- 海外子会社とのコミュニケーションが十分できていない。

6.戦略的CSRマネジメント プログラム

貴社の「ステークホルダー」ごとのリスクおよびチャンスの分析、貴社の経営資源・ISO・業界の動向等の分析による、現実的かつ効果的なCSR計画の策定支援。

個々の具体的なメニューを、会社あるいはグループ全体としてCSR推進体制構築の支援。

戦略的CSRを推進するために必要となる教育・研修プログラムの構築支援。

- CSRをやりたいが何からやればよいか分からない。
- CSRに対する社内の理解や協力が得られない。
- 何のためにCSRをやっているのかうまく説明できない。
- CSRの効果が把握できない。

7.事業継続管理支援プログラム

事業継続管理システム(BCM)の導入支援

事業継続管理システム(BCM)に基づく、事業継続計画(BCP)の策定支援

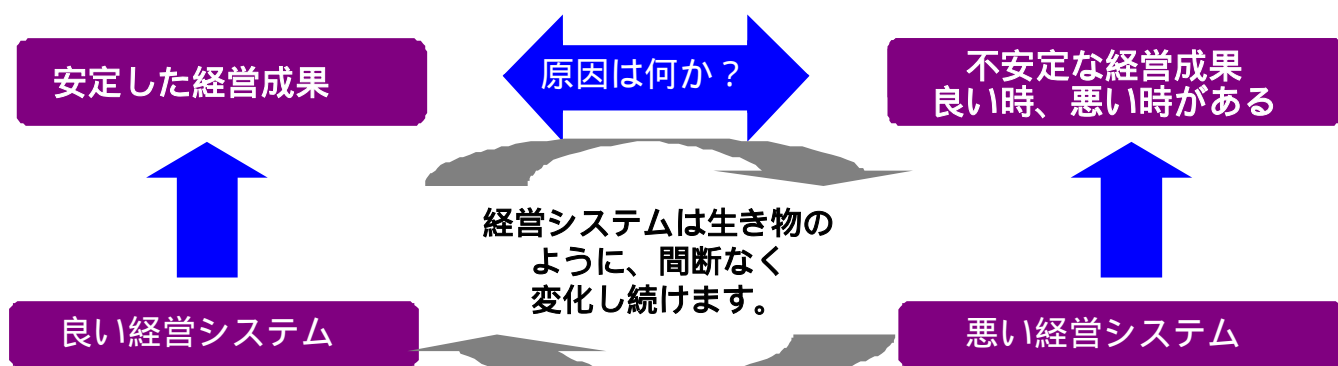
必要に応じて、事業継続管理システム(BCM)に基づく認証取得支援も可能 等

- 大規模災害や事故発生の影響拡大に対する対応。
- 複雑化する企業間連携による事業継続リスク対応。
- 社会的責任への対応。
- 事業継続に関する国内・国際標準化の動向への対応。

経営システム研究クラスターのご紹介

✓経営システムの機能不全を防止するために、システム自体が備えなければならない リスクの認識能力、 識別されたリスクへの対応能力 を評価するための技術開発を研究テーマとしています。

✓時として間違いを起こす不安定な人間の判断を、適切な経営システムの機能により統制する仕組の再構築をコンサルティングサービスとして提供します。



お問い合わせから契約締結まで



契約のご締結までは、お客様の費用は発生しません。

お問い合わせ / ご相談内容等入手した資料や情報の秘密は厳守します。

お問い合わせ先

株式会社 日本総合研究所 総合研究部門
経営システム研究クラスター

<http://www.jri.co.jp/consul/theme/risk/index.html>

〒542-0081

大阪府中央区南船場3-10-19 銀泉心齋橋ビル3階

TEL 06-6243-4644

FAX 06-6243-4668

E-mail ohbayashi.masayuki@jri.co.jp